

甲斐市立竜王西小学校 自己評価書

令和6年2月9日（金）作成

校長 「立澤 正二」 記述者 職名（教頭）「飯塚 正規」

学校教育目標 「自ら学び、自ら考え、進んで行動する 心豊かでたくましい児童の育成」

学校経営方針

「21世紀を担う人間性豊かで、社会の変化に対応できる生きる力の育成」をめざし、学校教育の充実に努める。

- (1) 確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた教育活動を推進する。
- (2) 全ての子どもたちが、「わかる」・「できる」ことが実感できる、楽しい授業づくりをめざす。
- (3) 全職員の協働体制「チーム竜西小」の教育活動を推進する。
- (4) 家庭・地域と信頼し合い、安全で安心な開かれた学校づくりに努める。

1 全体評価

○すべての項目においてA（とてもそう思う）またはB（そう思う）が最頻値であり、ABを合わせた回答は、すべて9割を超えていた。昨年度は、Ⅲ-4に関して84.2%であったことから考えると、今年度は学教教育目標の具現化に向けて、昨年度以上に教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいたと考えられる。

○各質問や学校生活全般・人間関係に関わる質問への回答では、肯定的な回答（A・B）が多くの割合を占めている。具体的なものとしては、肯定的な回答（A・B）が、1「学校は楽しいですか」90.2%（昨年+1.8）、9「授業（勉強）でわからないことがあったら、先生に聞いていますか」77.2%（昨年比+5.2）、10「人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか」75.3%（昨年比+6.2）、23「だれとでもあいさつをしていますか」90.2%（昨年比+1.1）、26「友だちと話したり、活動したりすることが楽しいですか」96.9%（昨年比+2.5）である。それぞれの項目で多くの児童は、昨年度より楽しい学校生活を送っている様子がわかる。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況 学校教育目標に関して・学校経営についての自己評価4設問中すべてにおいて、肯定的評価（A・B）が100%となった。また、1「あなたは、学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている。」の設問が、Aの数値がBより大きく増加した。

改善策 4「あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。」のAの数値が昨年度に比べ3.7%低くなった。校務分掌や、行事検討委員会のより一層の工夫を目指していく。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況 自己評価では、7設問中5設問で肯定的評価（A・B）が100%となった。7「あなたは業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。」という設問に対して、昨年度はC評価が7.7%あったが、今年度は、肯定的評価（A・B）が100%となった。これは、今年度働き方改革に向けて教職員全体で積極的に取り組んだ結果だと考えられる。

	<p>しかし、6「あなたは、校務支援システムを十分活用できている。」に関しては、昨年度はDが0%であったが、今年度は3.8%となったことから考えると、校務支援システムに関しては、課題が残る。保護者アンケート1「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」が91.2%、6「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。」93.9%、8「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」90%などの学校運営に関わる質問に対して肯定的評価(A・B)が90%以上の数値を得ており、すべて昨年度より増加している。これらは、学校運営に対して、昨年度以上に保護者が好意的に理解を示していると捉えることができる。</p>
改善策	<p>5「あなたは、校内研究(研修)に主体的に関わっている。」という設問に対して、C評価が7.4%であった。今後の取り組みとして、校内研究会や教職員の研修を通じて、授業と学級経営の充実を目指す。6「あなたは校務支援システムを十分活用できている。」という設問では、Dが3.8%あった。今後の取り組みとしては、ICTを取り入れた、「自他を尊重し、生き生きと学び表現する児童の育成」の達成を目指していく。</p>
Ⅲ 学習指導について(児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)	
達成状況	<p>自己評価では、7設問中4設問において、肯定的評価(A・B)が100%である。残りの4「あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」6「あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。」のすべてが、90%以上の肯定的評価(A・B)を得ており、概ね達成できている。このことから、昨年度以上に、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に取り組んでいることがわかる。保護者アンケートでは、9「お子さんは授業がわかっていると思う。」という設問に、肯定的評価(A・B)が80.5%であり、昨年度よりも0.6%下がった。</p>
改善策	<p>4「あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」において、C評価が4.8%であった。一人一台端末の導入により、ICT活用の充実が必須となってきたが、教職員間での技能差が著しい。そのため、ICT担当を中心とした研修や情報共有をさらに進めていく。家庭学習については、年間で決められたはじめの7日間を家庭学習強化週間(各自の学習の様子振り返る)として保護者の協力を得ながら実施しているが、このことを継続していく。</p>
Ⅳ 生徒指導について(児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)	
達成状況	<p>生徒指導について自己評価は、6設問中、5設問について肯定的評価(A・B)が100%となった。5「あなたは、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応ができている。」は肯定的評価(A・B)95.8%であり、昨年度より4.2%低い数値となった。保護者アンケートでは、生徒指導に関わる設問すべてにおいて、昨年度より高い数値となった。</p>
改善策	<p>自己評価において、5「あなたは、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応ができている。」の肯定的評価(A・B)が、100%ではなかったため、教職員の情報共有に努めて、SOSの変化に気付く教員育成を行う。また、保健室登校や空き教室での居場所作りやSCとの連携を強化していく。</p>
V 地域との連携について	

達成状況	地域との連携についての自己評価すべてにおいて、肯定的評価が100%であった。特に、1「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」の設問に関して、昨年度は96%の肯定的評価(A・B)であったが、今年度は、100%の達成となった。現在西小でお願いしている地域の人材や施設の活用が定番化してことが成果と考えられる。しかし、定番の人材や施設であってもその授業を受ける児童は毎年変わっていることを念頭に、教員の意識がマンネリ化しないようにしていくことが重要だと考える。
改善策	地域との連携においては、1「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」のC評価が昨年度は4.0%であったが、今年度は、肯定的評価(A・B)100%達成となった。地域における学校の役割は、大変重要であり、地域の願いを汲んだ教育活動が求められている。そのために、県のいきいき教育地域人材活用推進事業による米作りや野菜作りの指導を継続的に行い、今後も同様に児童の学習に大いに生かしていく。さらに、保護者や地域の要望に迅速かつ丁寧に対応するために、ホームページや学校だよりを積極的に活用していく。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	どの項目についても肯定的な回答である。また、どの項目についてもA回答の数値が高いことから日常的に学校の特色づくりを意識した教育活動が進められているといえる。1「あなたは児童が進んで挨拶をするよう、指導に努めている」については、73.1%の教員がA、残りの26.9%がBと回答している。一方で、保護者アンケートでは20「学校は、子ども達に学校以外でも挨拶をするように指導しているか」で21.2%の保護者が否定的な回答をしていることから、教職員の「指導しているという意識」と保護者・地域の方が「学校が指導をしている」と感じるころに差があることがわかる。教職員と保護者・地域の間をつないでいる児童の変容にしっかりと目を向けることで、この差を埋めていけるようにする必要がある。授業参観や学校開放については、教職員の自己評価だけでなく保護者アンケートでも93.7%を超える肯定的な評価を得ていることから、児童の姿を保護者や地域に開くことができているので今後も継続していけるようにする。
改善策	「甲斐っ子の宝」(心をそろえる整理整頓、心を磨く清掃活動、心を伝えるさわやかなあいさつ)の取り組みを継続していくことで、引き続き基本的生活習慣(あいさつやマナー)の確立と規範意識の向上を図っていく。
VII 創甲斐教育について	
達成状況	3つの項目とも100%肯定的な回答であった。1「あなたは児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。」3「あなたは児童の体力が向上するように意識して指導に努めている。」の2設問においては、昨年度に比べAが大きく増加している。これらのことから、創甲斐教育を念頭に置いた学校教育が展開できているといえる。
改善策	今後も、本校にある「すこやか委員会」の機能(生徒指導と特別支援教育)やスクールカウンセラー他、外部機関との連携をいかして、全校体制による組織的な取り組みの実施と、教職員の指導力の向上に努めていく。また、「きずなの日」を有効利用し、児童教師のつながりを深めることや家庭・地域からの情報を積極的に取り込みながら、望ましい人間関係の構築を進めていく。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・教職員の自己評価では、すべての項目において、肯定的評価（A・B）が昨年以上に高く、全体的に達成できている。全教職員が学校教育目標に向けて、校長の学校経営方針の下に共通理解をして教育活動にあたっていることが確認できた。児童・保護者アンケートにもその成果が反映されていた。

〈課 題〉

- ・防災意識に関して、自己評価・子ども・保護者アンケートを比較すると、肯定的評価（A・B）が100%、82.9%、74.8%の数値となった。防災に関する資料提示やホームページでの情報発信を積極的に行い、さらに実践的な引き渡し訓練も実施していく。